

令和 5 年度 事故防止研修会

令和 5 年 6 月 1 3 日
こども未来部保育課

1

保育施設での痛ましい事故

≪ 令和 4 年 6 月 年長児 ≫

- ・ 午後 1 時過ぎ、園庭にて 5 歳の園児が、担任保育士がホースで撒いていた水に向かって走り出した。他の方向から別の園児も走ってきたが、2 人とも担任保育士の方を見ていて互いに相手のことに気づいておらず、担任保育士の 5 m 前で 2 人は衝突した。

本児は、ぶつかった衝撃で跳ね返り、仰向けに倒れて地面に後頭部を打った。その後、本児は意識不明となり救急搬送され、急性硬膜下血腫の診断名で緊急手術を受けた。一命はとりとめたが、介助が必要な状態が続いている。

「わが園では死亡事故なんて絶対に起こらない」と言えますか？

2

研修会の流れ

1. 『事故防止及び対応マニュアル』
(令和5年4月一部改訂) について

2. 効果的な事故の再発防止策について



3

1 新潟市事故防止及び対応マニュアルについて

改正のポイント



- * 重大事故を予防するチェックポイントに「園外保育」が追記
- * 「安全計画・危機管理マニュアルの作成」について追記

4

食う（食べる）



- ・ 6 か月の園児（鹿児島県）、8 か月の園児（愛媛県）
- ・ リンゴをのどに詰まらせて、意識不明、または死亡
- ・ 入園して数日

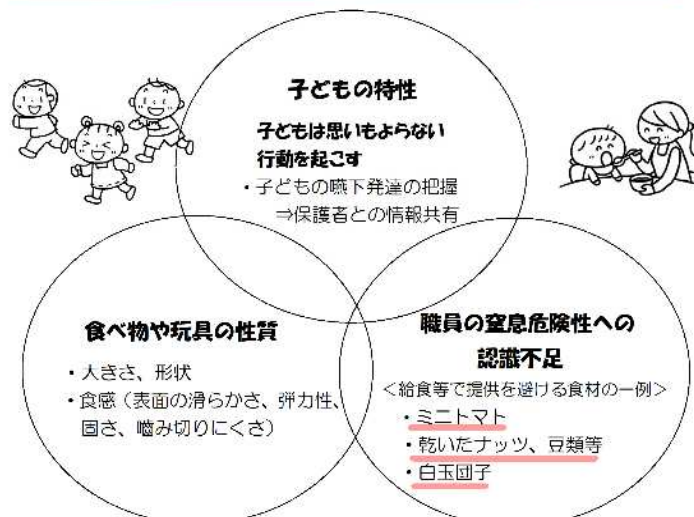


お弁当のミニトマトやぶどう等にも十分気を付けたいですね。保護者にも注意喚起していきましょう。



5

食べること＝危険！の意識を持つ 66 いつも観察



※令和4年9月9日付保育課通知 新育第768号の2
「保育施設における誤嚥・窒息事故防止対策について」参照

6

チェックポイント①

1. 環境

- ☐ 食器・食具（はし、哺乳瓶）は適切か
- ☐ 机・椅子の高さは適切か
- ☐ 慌てて配膳していないか
（誤配膳防止を含む）



チェックポイント②

2. 食品の形態

- ☐ 大きさ・形状・温度・量・粘度等は適切か
- ☐ 個々に応じた一口の量・大きさに調整しているか
- ☐ 球状のものはカットされているか

チェックポイント③

3. 食事時間



- ☐ 正しい姿勢で座っているか
- ☐ 子どもの意思に合ったタイミングで食べさせているか
- ☐ 子どもの口に合った量を与えているか
詰め込まないよう声をかけているか
- ☐ よく噛むよう伝えているか
- ☐ 食べ物を飲み込んだことを確認しているか
- ☐ 汁物などの水分を適切に与えているか
- ☐ 食事中に驚かせていないか「笑う・泣く」が
起きたとき詰まらないよう観察しているか
- ☐ 眠くなった時、無理に口に入れていないか
- ☐ 食べるスピードが速すぎないか
- ☐ 食事終了後、口の中に食べ物が入っていないか

7

- ☐ 誤嚥・誤飲・窒息につながるものを持ち込んだり、身につけたりしていないか
保護者にも協力を求めているか
（例：髪飾り、キーホルダー、ビー玉、磁石、
小石、木の実等、菓子、フード付き上着など）



- ☐ 職員は服装に気を付けているか（髪留め、
ピアス、ボタン等）
- ☐ 絆創膏は剥がれかかっているか 
- ☐ おんぶをする時、子どもが何も手に持っていないか確認しているか
- ☐ 手先を使う遊びには、部品が外れない工夫をしたものを使用しているか
- ☐ 発達に合ったおもちゃを選択しているか
（素材や大きさなど）

- ☐ 異年齢が一緒に遊ぶ場合は、低年齢児の安全に配慮したおもちゃを選択しているか
- ☐ 薬品、洗剤はカギがかかる場所に保管しているか（必要に応じて）
- ☐ 菜園活動中や散歩中等に、作物や木の実等を口に入れていないか
- ☐ 窒息の危険性があった玩具やこれまでに窒息事例があるものと類似した形状の玩具等については、施設・事業所内で情報を共有し、除去しているか



8

寝る（睡眠）



- ・6か月 認可外保育園（東京都）
授乳後、うつぶせの状態が入眠→入眠から30分間呼吸チェックを実施せず→吐いたミルクの誤嚥による窒息死
- ・乳幼児突然死症候群
(SIDS: Sudden Infant Death Syndrome)
2019年は78に人の乳幼児がSIDSで亡くなっており、1歳未満の赤ちゃんの死因としては第4位となっている。



9

睡眠中の赤ちゃんの死亡を減らしましょう

乳幼児突然死症候群

睡眠中に赤ちゃんが死亡する乳幼児突然死症候群 (SIDS: Sudden Infant Death Syndrome) という病名があります。

SIDSの予防方法は確立していませんが、以下の3つのポイントを守ることで、SIDSの発症率が低くなるというデータがあります。

SIDSの発症率が低くなるというデータがあります。

- ① 仰向きになるまでは、寝かせる時はあおむけに寝かしましょう
寝る時にうつぶせや側臥位に寝かせることは避けてください。寝かせる前には必ず赤ちゃんの顔と首の位置を確認し、あおむけに寝かせるようにしてください。また、赤ちゃんの顔と首の位置を確認し、あおむけに寝かせるようにしてください。
- ② できるだけ母乳で育てましょう
母乳育児が赤ちゃんにとっても親にとっても良い効果をもたらすことが知られています。母乳育児が赤ちゃんの健康に良い影響を与えることが知られています。
- ③ 室温を涼しく保ちましょう
赤ちゃんの体温は大人よりも高いため、室温を涼しく保つことが重要です。赤ちゃんの体温を測り、室温を涼しく保つことが重要です。

厚生労働省 乳幼児突然死症候群 (SIDS) について
http://www.mhlw.go.jp/fushoku/kosodate/sids.html
乳幼児突然死症候群 (SIDS) に関するお問い合わせ先
http://www.mhlw.go.jp/fushoku/kosodate/sids_guide.html

厚生労働省

窒息事故防止のために

睡眠中に赤ちゃんが死亡する原因には、乳幼児突然死症候群 (SIDS) のほか、窒息などによる事故があります。

ベビーベッドに寝かせ、 柵は常に上げておきましょう

できる限りベビーベッドを使用し、国が定めた安全基準の検査に合格した製品であることを示す、PSCマークが貼付されたベビーベッドを選びましょう。また、赤ちゃんは日々成長し、できることが増えるため、動かさないでと指示せず、転落しないように、柵は常に上げておきましょう。赤ちゃんの顔や身体がはさまれないよう柵の間隔やベッド柵と敷きパッド・マットレスの間隔をなくしましょう。

敷布団・マットレス・枕は固めのものを、 掛け布団は軽いものを使いましょう

ふかふかした柔らかい敷布団・マットレス・枕は、うつぶせになった場合に顔が埋まってしまい、鼻や口がさがれて窒息するリスクがあります。赤ちゃん用の固めの寝具を使いましょう。掛け布団は、赤ちゃんの顔や身体がはさまれないよう、軽く暖かいものを使用し、顔にかからないようにしましょう。また、保護者が寒い寝をする時は、赤ちゃんを身体や顔で圧迫しないように注意しましょう。

口や鼻を覆ったり、 首に巻き付くものは置かない ようにしましょう

赤ちゃんは、寝返りしたり、ずり上がりたり、寝ている時に動き回ります。このため、布、タオル、衣類、よだれ掛け、ぬいぐるみなどが口や鼻を覆ったり、首に巻き付いたりして窒息するリスクがあります。

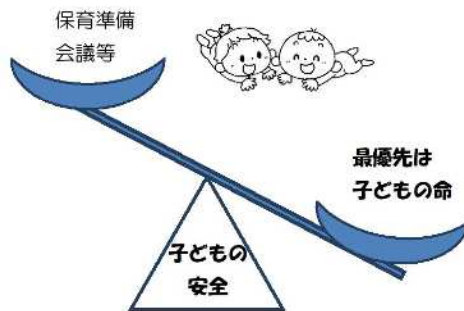


厚生労働省

10

睡眠中が最も突然死等のリスクが高い！

—《自園でも起こりうる》という前提で突然死等を予防する—



子どもの命を守ること = 職員の心と仕事を守ること

突然死等のリスクの軽減

- ・窒息の危険を取り除く
- ・仰向けに寝せる
- ・預け始めの時期は要観察

異常の早期発見

- ・睡眠チェックをする
- ・睡眠チェックに専念できる体制づくり

緊急体制の整備

- ・救急車要請と蘇生措置

気づきとヒヤリハットの共有

- ・危険に気付く（ヒヤリハット）
- ・職員間で予防策を確認し共有する

11

チェックポイント①

入園時の確認

- 入園児の生育歴を把握する
- 配慮事項がある場合は全職員で情報を共有する
- SIDS 対策普及啓発用ポスター（厚生労働省）を掲示したりリーフレットを配布する
- 子どもの健康状態等の情報を日々保護者と共有する（預け始めや体調の悪い時は要注意）



チェックポイント②

睡眠中の観察 ■全身状態の確認

- 0・1・2 歳児はうつぶせ寝を見つけたら **仰向けにする（お腹を上にした体位）**

- 0 歳児は 5 分毎
 - 1 歳児は 10 分毎
 - 2 歳児は 10 分～15 分毎
 - 3 歳児以上は 20 分毎
- に観察する

- ・名前の確認、顔色、唇の色
- ・呼吸状態の有無（呼吸音、胸の動き）
- ・呼吸の様子（咳、喘鳴、鼻づまり）
- ・体温（体に触れる、発汗）
- ・体位

- その都度、睡眠チェック表に記録する。

- 睡眠チェック表〈資料編 P7～10〉

12

チェックポイント③ 睡眠環境等の確認

- ☐ 敷き布団は固めのものが
- ☐ 掛け布団は軽いものが
- ☐ コットの上のマット等は固定されているか
- ☐ 布団やコットは観察しやすく並んでいるか
- ☐ 布団と布団の間に顔が埋まらないよう布団のすき間をあけて敷いているか
- ☐ 周囲に「ぬいぐるみ」「おもちゃ」「ヒモ状のもの」はないか
- ☐ 室内は顔色等が観察できる明るさか



- ☐ 部屋は適温・適湿か
- ☐ 適宜換気を行っているか

※適切な室内環境の目安

- ・温度：(夏) 26～28℃
：(冬) 20～23℃
- ・湿度：約 60%
- ・換気：1 時間に 1 回

カーテンは直射日光や寒さ防止等、必要な場合を除いて、基本的には明るさ確保のため開けておく



- ☐ 体調等いつもと違う様子はないか
- ☐ 口の中に何も入っていないか
- ☐ 授乳後、ゲップはしたか
- ☐ よだれかけは、はずしているか
- ☐ 着せすぎではないか
- ☐ おもちゃ等を持っていないか
- ☐ 布団に入る時から仰向けにしているか
- ☐ 掛け布団やタオルで口元が隠れていないか

- ・室温湿度計は子どもが生活する高さに設置する(安全に留意しながら)
- ・冷房は床面の温度が 2～3℃低い場合があるので睡眠時は留意する
- ・床暖房やホットカーベットは暖めすぎに注意しながら適宜使用する

13

令和 年 月 日

睡眠チェック表(5分チェック) 0歳児→5分 1歳児→10分 施設名

0歳児

- ★ 布団は観察しやすく敷べる。当日敷いた布団の順番に名前を記録すると午添チェックしやすい。
- ★ 部屋は暖かい・適温・適湿か

★ 窒息リスクの除去を行い、安全な睡眠環境を整える

- ☐ 必ず保育者が付き添い、子どもだけしない
- ☐ 乳児の顔が見えるように仰向けに寝かせる
- ☐ よだれかけを外し、口の中に異物がないか確認する
- ☐ 周囲にぬいぐるみ、タオル、ひも状のものを置かない
- ☐ ミルクや食べたもの等の腐敗物がないか確認する
- ☐ 部屋は暖かい・適温・適湿か
- ☐ 床暖房やホットカーベットは、暖めすぎに注意し、適宜使用する。

★ 睡眠チェックのポイント

- ・ 十分な観察ができる明るさの確保
- ・ 名前、顔色、唇の色の確認
- ・ 呼吸状態の有無(呼吸音、胸の動き)
- ・ 呼吸の様子(咳、喘鳴、鼻づまり)
- ・ 体温(体に触れる、発汗)
- ・ うつぶせになっている子を仰向けになおす

図表印

湿度	湿度
℃	%

【記入方法】

- ★ 保育者がわかるように保育者の漢文字を記入し、
- 仰向けにしたときは頭文字を○で囲む。
- ★ 記入した項目と変更した項目を○で囲む。
- 空欄は、チェック時に時間記入する

氏名	7	8	9	10	備考																																
0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	備考	
11	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	時折眠をしていた
15	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
18	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
21	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
24	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
27	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
30	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
33	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
36	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
39	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
42	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
45	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
48	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
51	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
54	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
57	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
60	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
63	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
66	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
69	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
72	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
75	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
78	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
81	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
84	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
87	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
90	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
93	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
96	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
99	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
102	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
105	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
108	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
111																																					

令和 年 月 日

睡眠チェック表(10～15分チェック)

施設名

2歳児

室温

湿度

【記入方法】

★ 確認者がわかるように確認者の頭文字を記入し、仰向けにしたときは頭文字を○で囲む

★ 仰寝した時「ア」 仰向けに直した時「イ」

★ 入眠した時間と起床した時間を○で囲む。表にない時間は、チェック欄に時間を記入する

★ 10分間隔でチェックできず15分間隔になった場合は、時間枠のライン上に記入する

★睡眠チェックのポイント ～必ず保育者が付き添い、子どもだけにしない～

☐ 十分な観察ができる明るさの確保

☐ 名前、顔色、唇の色の確認

☐ 呼吸状態の有無(呼吸音、胸の動き)

☐ 呼吸の様子(咳、喘鳴、鼻づまり)

☐ 体温(体に触れる、発汗)

☐ うつぶせになっている子を仰向けになおす

園長印

氏名	11	12	13	14	15	備考														
記録欄	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50		
1																				
2																				
3																				
4																				
5																				
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12																				

15

令和 年 月 日

睡眠チェック表(20分チェック)

施設名

3歳児以上

室温

湿度

【記入方法】

★ 確認者がわかるように確認者は頭文字を記入する。

例) 青木先生が確認した時 → ア

★ 睡眠中の特記事項があれば、時刻と内容を記入する。

★睡眠チェックのポイント ～必ず保育者が付き添い、子どもだけにしない～

☐ 十分な観察ができる明るさの確保

☐ 名前、顔色、唇の色の確認

☐ 呼吸状態の有無(呼吸音、胸の動き)

☐ 呼吸の様子(咳、喘鳴、鼻づまり)

☐ 体温(体に触れる、発汗)

園長印

氏名	12	13	14	特記事項			
記録欄	0	20	40	0	20	40	
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							

16

水遊び（プール遊び）



- ・3歳児 保育施設（埼玉県）
3～5歳児20名が入水、保育士2名は滑り台撤去作業のため、
約1分プールから目を離す→気付いた時には溺死

水遊びには監視者 子どもから目を離さない

徹底した安全対策



監視体制の確立
監視者が監視に専念できる
体制作り



緊急時への対応
心肺蘇生法・AED操作研修
緊急時の応援体制の確立
(シミュレーション研修)



乳幼児の特性とリスク
10 cmの深さでも溺れること
がある
～子どもは静かに溺れる～

★安全を最優先に考え、十分な監視体制が確保できない場合は、プール活動を中止する

17



監視者とは

プールサイドの子ども達と遊んだり
プール指導者の補助をしたりせず、
監視に専念する者

○話しかけない ○頼まない

●監視体制の空白が生じないように**監視を行う者**と
プール指導を行う者を分けて配置する

「監視者」の目印等を決める
ビブス、タスキ、キャップなど

役割

- プールサイドからプール全域（水面と水の中）をくまなく監視する
- プールに参加している子どもの人数を把握し、確認を適宜行う
- 動かない子どもや不自然な動きをしている子どもを見つける
- 特定の子どもの目線を固定せず、個々の特性を理解し、規則的に目線を動かしながら
全体を監視する 異常かどうかの見極めは、顔（特に目）を見る
- 持ち場を離れる時は、代わりの職員を配置する
- 子どもが全員プールからあがるまで目を離さない

18

チェックポイント①	チェックポイント②
1. 事前管理 ☐ 水遊び（プール遊び）のマニュアルの確認 ☐ 慢性疾患等の配慮を必要とする子どもへの対応の確認 ☐ 当日プール活動ができない子どもへの対応の確認 ☐ 排泄が自立していない子どもへの対応の確認 ☐ プールに入る人数の確認（人口密度を少なくする）	2. 活動実施の判断 ☐ プール遊びができる環境が - 一つでも当てはまる場合は中止とする ☐ 水温＋気温＝50度未満又は65度以上 ☐ 暑さ指数31度以上 ☐ 光化学スモッグ警報発令のとき ☐ PM2.5の注意喚起のとき ☐ 雨天、強風、雷
チェックポイント③	
3. 環境の整備 ☐ 日よけ対策は行っているか ☐ プールの破損・亀裂はないか ☐ 石やガラス等の危険物、鳥の糞はないか ☐ プールサイドは滑りやすくなっていないか ☐ 排水溝の安全対策は行ったか ☐ プールの清掃と整理は行ったか ☐ プライバシーへの配慮は行っているか ☐ 監視場所に死角はないか ☐ 心肺蘇生法・AED操作や緊急時対応のフローチャートをプール付近で確認できるか	

19

園外保育

・4歳児 保育施設（長野県）

下見をせずに園外保育へ行く。

広場に隣接する墓地に入り、倒れた墓石の下じきになる→4日後死亡

戸外は行動範囲が広がる ・ 声に出して人数確認



人数確認 出発前⇒ 歩行中⇒ 目的地到着後・随時・出発時⇒ 帰園後

必ず
ダブルチェック
しましょう！



散歩(園外保育活動)のねらい

- ・年齢や発達に合ったねらいを設定する

十分な職員体制

- ・事前に役割分担をしておく
- ・突発的な行動（状況）に対応できる人員配置で出かける

チェックリストの確認と周知

- ・年齢別チェックリスト、園外保育チェックリスト、園児数確認メモ
- お散歩行ってきますカード

目的地の事前調査(散歩経路マップ、公園マップの作成)

- ・実際に子どもの目線で歩いてみる
- ・季節や気候、工事など突発的な事でも目的地や途中までの配慮が異なるため、日頃から状況把握をしておく

20

散歩時のチェックポイント

- ☐ 事前に経路、目的地の下見に行き、その情報を職員と共有したか
- ☐ お散歩いってきますカードを作成したか
- ☐ 職員の役割を確認したか（歩くときの配置、人数確認等）
- ☐ 散歩カー、避難車の安全点検を行ったか（乳児クラス）

園外保育時のチェックポイント

- ☐ 行き先が年齢や発達に合っているか
- ☐ 下見に行ったか
- ☐ 当日の計画書を作成したか（雨天時を含む）
- ☐ ケガ等に備え、目的地近隣の病院（電話番号、診療時間）・タクシー会社（電話番号、支払い方法）を確認したか
- ☐ 利用する交通機関に事前連絡したか
- ☐ 名札着用の際は、個人情報に留意したか

共通のチェックポイント

- ☐ 子どもの心身の健康状態を把握し、参加の可否を判断したか
- ☐ 服装（靴）は適切か（安全性、気候、気温を考慮する）
- ☐ 出発前に万が一に備え服装等がわかるように子どもの写真を撮ったか
- ☐ 帰園後、子どもの健康状態、ケガの有無を確認し、ヒヤリハット事例があった場合には職員で共有したか

持ち物

- ☐ 防犯ブザー、笛
- ☐ 救急用品 ☐ 携帯電話
- ☐ 園外保育チェックリスト
- ☐ 園児数確認メモ
- ☐ 筆記用具 ☐ 着替え

21

安全計画・危機管理マニュアルの作成



R 5 年 4 月 1 日より策定が義務付け

	安全計画	危機管理マニュアル
該当施設	保育園 保育所型認定こども園 地域型保育事業所 認可外保育施設	幼保連携型認定こども園 幼稚園型認定こども園 幼稚園
法的根拠	設備運営基準及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準（平成 2 6 年厚生労働省令第 6 1 号）	学校保健安全法第 2 9 条

安全計画に求められる内容…

- 保育所等の設備の安全点検の実施
- 園外活動を含む保育所等での活動・取組等における職員や児童に対する安全確保のための指導
- 職員への研修や訓練
- 保護者への説明・共有
- 計画の定期的な見直し・変更

等

保育園・保育所型認定こども園
地域型保育事業所・認可外保育施設

各施設において、これらの取組を計画的に行うためのスケジュールを定める。

危機管理マニュアルに求められる内容…

- 事前の危機管理
- 発生時（初動）の危機管理
- 事後の危機管理
- 学校安全計画

等

幼保連携型認定こども園
幼稚園型認定こども園・幼稚園

各施設において、これらの対策や対応を具体的に定める。

23

（記載例）

施設名：（1 / 3）

安全計画＜安全点検＞

月	実施行事	安全点検			マニュアルの制定・共有		
		日常点検箇所	重点点検箇所	実施日	制定・見直し（再点検）内容	実施日	表示・管理操作
4月	入園式	・施設安全点検	園内外の設備の点検、整備、点検	○ □	重大事故防止マニュアル（食事・午睡・園外保育・バス送迎）	○ □	事務室・各保育室
		・遊具安全点検	敷設コースの確認（A公園、B公園）	○ □	災害時マニュアル	○ □	
		・保育室安全点検	緊急避難時の確認（C公園、公民館）	○ □	緊急対応時マニュアル	○ □	
		・園外保育安全点検		□	不審者対応時マニュアル	○ □	
		・睡眠チェック		□	防災マニュアル	○ □	
5月	遠足	・送迎バス安全講習		□		□	事務室・各保育室
		・避難作点検	敷設コースの確認（C公園、D公園）	○ □		□	
		・AFO製作点検	遠足目的の交通安全確認	○ □		□	
6月	運動会	・災害時備品の確認・点検		□		□	事務室・各保育室
		・消火設備、避難用品の点検		□		□	
7月	プール・水遊び	・台車・水遊び備え置きの安全点検	プール・水遊びの用具の安全点検	○ □	重大事故防止マニュアル（プール・水遊び）	○ □	事務室・各保育室・プールサイド
		・冷房設備の点検の点検	冷房設備の点検	○ □		□	

24

施設名: (2/3)

安全計画＜児童・保護者に対する安全指導＞

月	児童への安全指導 (内容：①保育所の生活における安全 ②災害や事故発生時の対応 ③交通安全等)			保護者への説明・共有
	内時	幼児(0～2歳児)	幼児(3～5歳児)	
上期 4～6月	①	・保育者の援助のもと、安全に遊ぶ。 ・災害時には、避難中も保育者によるおんがけや抱っこで安全に避難する。	・園内の安全な生活の仕方を知る。 ・毎日の安全な生活の仕方を知る。 ・園外保育・遠足時における、安全に過ごすための決まりや約束事を知る。 ・送迎バスでの乗り降りの仕方や車中待の約束を知る。 ・送迎バスに万が一誤りされたことを想定し、クラクションを鳴らす等の訓練をする。 ・避難訓練の意味や必要性を知る。 ・「おかしな」「いかにおかしな」約束を知る。	・目標の保育の中で、情緒の安定を認め、落ち着いて行動がえられるようになる。 ・安全に過ごすための決まりや約束事を分かりやすく知らせる。 ・散歩マップを作成する。
	②			・災害時の避難休所や引き渡しのルール、緊急時の役割分担を全職員で確認する。
	③	・園近辺の道路で車、自転車、歩行者の存在に気付く。	・道路の正しい歩き方、遊び方を知る。 ・乗り物（送迎用自動車・バス、電車等）の正しい乗り方を知る。 ・飛び出しをしない。 ・車の目の交通安全について知る。	・子どもの特性や個人差、年齢、年齢差が関係して無理の方法で安全に付くようにする。 (通年) ・右側通行、道路の歩き方、乗り物のマナーなど、様々な場面で見直し、体得できるように指導する。 ・朝や平日等で動きが早く車が見えにくく危険が多い事を知らせる。

25

施設名: (3 / 3)

安全計画＜訓練・研修＞

[illegible]

26

遊具の安全点検



- ・ 登り棒の溶接部分が劣化していて、子どもの重みで折れてしまい、転落した。転落時、登り棒近くのブロック塀に頭を擦ってケガをしたが、幸い大事には至らなかった。

→使用前の遊具の安全点検は、「誰が」「いつ」「どのように」行うことになっていたのか？

27

年 月 遊 具 (園 内 外) 安 全 点 検 表 2		施設名																														
		園長印																														
★点検チェックは、良好(○)、改善(×)で示す ★異常があったときは、速やかに園長に連絡し、職員間で共有する																																
点検者		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1	ブランコは安全に使えるか																															
2	滑り台は安全に使えるか																															
3	ジャングルジムは安全に使えるか																															
4	鉄棒は安全に使えるか																															
5	総合遊具は安全に使えるか																															
6	うんていは安全に使えるか																															
7	砂場にごみ等落ちていないか																															
8	園庭に石、ガラス等危険物はないか																															
9	(雨上がり等)遊具が濡れていないか																															
10	水たまりはできていないか																															
11																																
12	各園オリジナルのチェックポイントを																															
13	設定しましょう																															
備考																																

28

安全管理



- ・ 3 歳児 保育施設（埼玉県）
- ・ 園庭の築山の頂上にある杭から垂らしたロープが、
3 歳児の首に巻き付いた。園児は意識不明の重体。その後回復。
- ・ ロープはその日の朝、設置。
- ・ 保育士は、ロープが巻き付く場面を見ていなかった

→「保育計画」や「遊具の安全点検」はどうなったのか？

29

事故発生防止（予防）のための取組

<子どもの人数確認>

○様々な場面での人数確認

- ・ 活動の切り替わり時は、特に注意
- ・ 出欠状況の確認→ICTシステムを有効活用しながら常に動静把握を行い
職員間における情報共有の徹底
- ・ 欠席連絡が入っていない場合は、**必ず保護者に速やかに確認**
- ・ バス利用の場合、乗車時及び降車時の確認及び降車後の座席確認
バス乗車職員と園で受入れる（送り出す）職員との情報共有の徹底。

○置き去りや飛び出しの危険は園外保育中だけではなくありません。

園内で過ごす時も**誰が・どこで・何をしているか**を常に把握
しましょう。

30

【園児見失い】

① 4 歳児 18:00頃

本児の弟が降園をしゅっている間に、本児が他児とその保護者とともに玄関から出ようとした。その姿を職員が見ており職員が保護。

② 3 歳児 17:10頃

園庭で遊んでいる際、母の迎えの車が見える。母がまだ保育室に迎えにこないうちに、自分で帰り支度をし、玄関から出る。（門扉からは出ていない）職員がすぐに保護。

③ 5 歳児 17:15頃

職員が保護者に伝達事項を伝えている間に、母の側にいた本児がいなくなり玄関から出る。（門扉からは出ていない）職員と保護者で保護。

④ 5 歳児 11:45頃

自然科学館で、人数確認後に移動中、園児が列からはぐれ、科学館の職員が保護。

31

< 送迎バス運行について >

⑦ 送迎バス運行について

- ・送迎バスの安全管理マニュアルを策定し、全職員で共通理解を図る。
- ・運転をする職員の他に子どもの対応ができる職員が同乗する体制を作る。
- ・点呼等の方法により、乗降車の際の子どもの所在確認を徹底する。
- ・送迎バスに子どもの見落としを防止する安全装置を装備する。

32

事故発生時の対応

◎重大事故→国報告対象

- 死亡事故
- 人工呼吸器を付ける、ICUに入院
- 治療に要する期間が30日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故等

◎重大事故等

- 骨折 ○複数の診療科受診 ○事故による保護者とのトラブル
- その他重症と思われる怪我等

33

「重大事故」「その他の事故」ともに受診を伴うケガは
事故発生当日（遅くとも翌日まで）に提出する

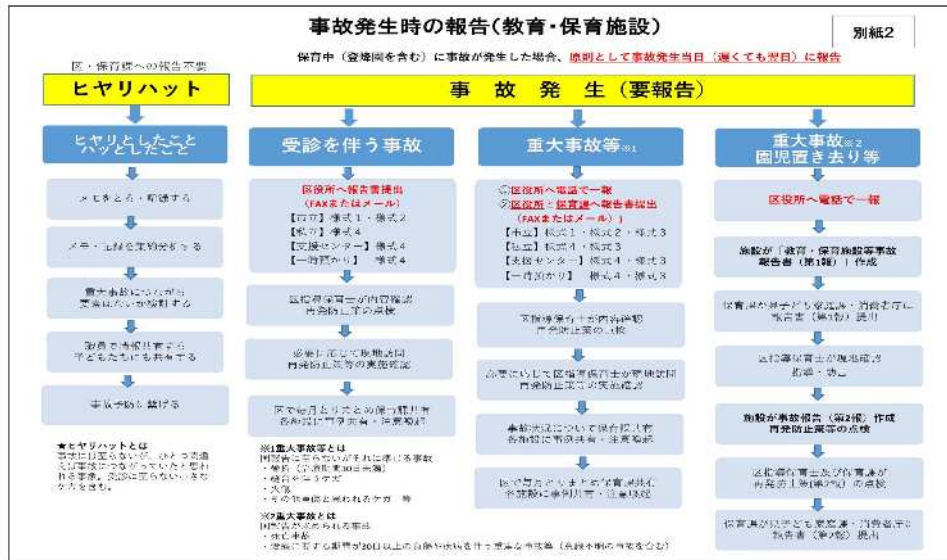
【報告様式一覧】 保育施設によって「様式」が異なるため、確認して報告書を作成する。

様式名	対象施設	第1報	資料編掲載ページ
【様式1】 災害報告書	市立	★	P37
【様式2】 受診結果及び事故防止具体策	市立		P38
【様式3】 事故の経過報告書	共通		P40
【様式4】 園児の事故報告書	私立	★	P41
【様式5】 事故報告書	病児保育	★	P44
【様式6】 事故報告書	認可外	★	P46
【様式7】 事故状況記録用紙	共通		P48
【様式8】 危機事象発生状況報告書	共通	★	P49
【別 添】 教育・保育施設等事故報告様式 <u>（重大事故／置き去りや見失い等発生時）</u>	共通	★	P51

★第1報として速やかに提出するもの

34

私市立保育園・認定こども園・地域型保育事業施設



35

病児・病後児保育施設・認可外保育施設



36

迅速な対応が求められる場合

①心肺蘇生・応急処置 

同時に119番通報をする



②事故の状況を的確に判断する（けが人、現場・周囲の状況等）

③保護者へ連絡（現在分かっている事実を説明する）



以上の対応を行った後、区や保育課へ報告を行う

37

事故状況記録用紙

様式7

※園内・園外において、(1)何らかの事故・事件が発生し、(2)人身被害が生じた場合、(3)事故に該当する児童(事故の経緯を含む)全ての職員が、速やかに事実を記録する。
※下記に【記録・提出する際の注意事項】を記載しています。

＜記入日＞		年	月	日	時	分
＜記入者＞		氏名				
＜記録・提出する際の注意事項＞		園長・副園長・主任・保育士・保育補助・保育士・園医・保健士・その他				
◆事故発生時		事故発生時刻				
時	分					
時	分					
分	秒					
分	秒					
◆事故発生後		事故発生時刻				
時	分					
時	分					
分	秒					
分	秒					
◆その他参考になること						

【記録・提出する際の注意事項】

- ①ボールペンなどの、修正できない筆記用具で、手書きで記録する。間違った場合は、二重線で消し、加筆して修正する。
- ②他の職員と相談せず、一人ひとりが個別に記録する。
- ③書き終わったものを他の職員に見せない。他の職員が書いたものを見ない。書いた内容について話をしない。
- ④書き終わったものは、園長またはそれに代わる責任者に提出する。
- ⑤集約した記録用紙は、コピーを取って園に保管すると共に、「原本」を各区指導保育士宛に至急提出する。

「教育・保育施設、認可外保育施設等における事故防止及び対応マニュアル～施設編」P18〔①事故の記録〕参照

38

2.効果的な事故の再発防止策について

①事故報告書から考える

<事故報告件数から>

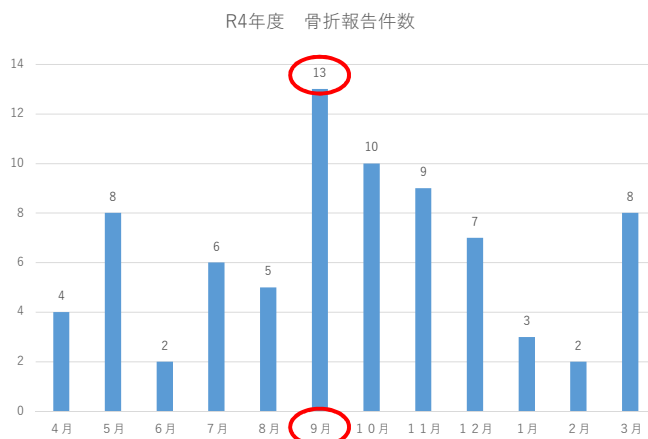


○令和4年度は6月の報告件数が多い。

⇒新しい環境に慣れてくる時期
慣れてきたからこそその行動予測が必要

39

<骨折事故から>



○9月に急激に増加

○事故内容として

- ・総合遊具からの転落
(鉄棒、雲梯、ジャングルジム、太鼓橋、登り棒など)
- ・とび箱
- ・おにごっこ、ドッジボール、リレー中の転倒

など

40

総合遊具からの転落による骨折

○事故報告書より（抜粋）

【概要】

- ・ 5月 8:50頃発生 園庭にて
- ・ 5歳児 右~~橈~~骨近位端骨折・右尺骨近位端骨折
- ・ 鉄棒で前回りをしようとしたところ、他児が近づいてきたので、「ダメだよ」と言ったところ、手を離してしまい落下。
- ・ 園児は12名。職員は1名。
- ・ 職員は総合遊具の傍にいたため、鉄棒の傍にはいなかった。職員がいた位置から鉄棒は死角。
- ・ 子どもたちとの約束として「鉄棒をする前には、必ず職員に声をかけて傍で見てもらいながらする」となっていた。

【防止策】

- ・ 園内のルールの見直しを定期的に（半年に1回以上）行う。
- ・ 鉄棒下にマット設置。固定遊具の点検事項の強化。
- ・ 職員数に応じて遊ぶエリアを区切る。・職員が一人体制の時は、総合遊具の使用は不可にする。
- ・ 鉄棒を使用していない時は三角コーン設置。
- ・ 子どもの様子に合わせ、必要に応じて複数で保育を行う。
- ・ 園庭で遊ぶ前に簡単なストレッチなどで体をほぐす。また、周知し習慣化できるように玄関に掲示を行う。



子どもたちとの約束だけでいいのか…？

園内の危険箇所やルールの見直し、周知にはどのように取り組むか？



41

とび箱での骨折

○事故報告書より（抜粋）

【概要】

- ・ 8月 10時50頃発生
- ・ 5歳児 左手中指基節骨骨折
- ・ 園児は25名。職員は2名。
- ・ 遊戯室でのサーキット遊び中。とび箱は遊びの設定のひとつとしてあった。
- ・ とび箱（4段）を跳び越えた際、バランスを崩し、マットに転倒。
- ・ 職員がとび箱の補助をしていたが、咄嗟のことで受け止めが間に合わなかった。

【防止策】

- ・ とび箱を行う際は必ず保育者が傍について危険がないよう行う。
- ・ 正しい補助の仕方や立ち位置を職員間で再確認する。
- ・ 個人の能力を見極めて取り組むようにする。子どもの姿や対応を職員間で再度確認する。



子ども一人ひとりの発達に見合っているのか…？



42

小学校指導要領（平成29年告示） 体育編（抜粋）

第2節 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

② 内 容

(1) 知識及び技能

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。
- ア 固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや滑り移動、縦り歩きや跳び下りをする。
- イ マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えたり体の転移や回転をすること。
- ウ 鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての揺れや上がり下り、ぶら下がったりをすること。
- エ 跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをする。

エ 跳び箱を使った運動遊び

跳び箱を使った運動遊びでは、その行い方を知るとともに、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをしたり、馬跳びやタイヤ跳びをしたりするなどして遊ぶこと。

〔例示〕

- 踏み越し跳び
 - ・ 片足で踏み越えて跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプをして跳び降りたりすること。
- 支持でまたぎ乗り・またぎ下り、支持で跳び乗り・跳び下り
 - ・ 数歩の助走から両足で踏み越え、跳び箱に両手を着いてまたぎ乗ったり、またぎ下りたりして手を支点に体重を移動させてまたぎ下りたりすること。
 - ・ 数歩の助走から両足で踏み越え、跳び箱に両手を着いて両足で跳び乗ったり、ジャンプをして跳び降りたりすること。
- 馬跳び、タイヤ跳び
 - ・ 両手で支持してまたぎ越すこと。
- 運動遊びが苦手な児童への配慮の例
 - ・ 踏み越し跳びが苦手な児童には、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下り、手を着いての跳び乗りや跳び下りが苦手な児童には、手を高くしたり、跳び箱の手置に布を置いて跳び乗りやすくしたりして、手で支えたり、跳んだりする動きが身に付くように場を調整するなどの配慮をする。
 - ・ 馬跳びやタイヤ跳びが苦手な児童には、床でうさぎ跳びやかえるの足打ち、かえるの逆立ちなどを行い、手で支えたり、跳んだりする動きが身に付くようにするなどの配慮をする。

小学校指導要領（平成29年告示） 体育編（抜粋）

〔第3学年及び第4学年〕

(1) 知識及び技能

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けること。
- ア マット運動では、回転系や移動系の基本的な技をすること。
- イ 鉄棒運動では、支持系の基本的な技をすること。
- ウ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技をすること。

基本的な技とは、習熟する技のグループの中で、最も初歩的で易しい技でありながら、グループの技に共通する技術的な課題をもっていて、当該学年で身に付けておきたい技のことである。

ウ 跳び箱運動

跳び箱運動では、その行い方を知るとともに、自己の能力に合わせた跳び箱（木製跳び箱）や運動器（金具跳び箱など）の様々な技をすること。また、常備的な技に上級に難しがる技で、それらの金具跳びに挑戦すること。

〔跳び箱1に支持し、両足方向を切り返して跳び箱を切り返す系の基本的な動き返し跳びグループ技の例〕

① 逆跳び（逆跳びかかえ跳び跳び）

- ・ 助走から両足で跳び乗り、足を前方に振り上げると、跳び箱を踏んで着地すること。

〔跳び箱2を1回しながら跳び箱1回跳ぶ系の基本的な跳び箱グループ技の例〕

○ 前1前跳（逆跳び：前跳前1前跳）

- ・ 助走から両足で跳び乗り、跳び箱を高く跳んで着地し、前方に回転して着地すること。

② 前1前跳（逆跳び：前跳前跳）

- ・ 前1前跳を行うように回転し、両足の跳び箱についたら腹を伸ばして体を反らせながら着地すること。

③ 前跳が苦手な児童への配慮の例

- ・ 前跳跳びが苦手な児童には、マットを跳び箱より高くして跳び箱1段を置いて、手を高くしたり、跳び箱を高くしたりして、両足の跳び箱についたら腹を伸ばして体を反らせながら着地すること。
- ・ 前1前跳が苦手な児童には、マットを跳び箱より高くして跳び箱1段を置いて、両足の跳び箱についたら腹を伸ばして体を反らせながら着地すること。
- ・ 前1前跳が苦手な児童には、両足を跳び箱より高くして跳び箱1段を置いて、両足の跳び箱についたら腹を伸ばして体を反らせながら着地すること。
- ・ 前1前跳が苦手な児童には、両足を跳び箱より高くして跳び箱1段を置いて、両足の跳び箱についたら腹を伸ばして体を反らせながら着地すること。

<ソフト積み木での事故から>

○事故報告書より（抜粋）

【概要】

- ・ 9月 10時30分頃
- ・ 5歳 右小指基節骨骨折
- ・ ソフト積み木で迷路を作り、高い積み木から、低い積み木へ歩いて移動する時、バランスを崩して転倒。

【防止策】

- ・ 事故前に、走り回る姿があり興奮している様子もあった。注意散漫になっていると予測される時は、子どもの姿に気づき、改めて遊び方について声をかけていく。
- ・ ソフト積み木の遊び方の検討。バランスを崩しやすいものや踏み外しそうなものを予想し、職員間で使い方、危険性を周知する。



遊び方は発達に合っているか…？
ソフト積み木の素材をふまえた遊び方の検討



45

<外部講師活動中の事故>

○事故報告書より（抜粋）

【概要】

- ・ 10月 10時50分頃
- ・ 5歳児 左膝打撲
- ・ 遊戯室でサッカー教室中、サッカーの試合をしていたところ、ボールの蹴り合いで友だちともつれ合い、足を引っかけて転倒。サッカーゴールと床に左ひざを打ち付ける。
- ・ ボールが4つ同時に転がっている状況があった。

【防止策】

- ・ サッカーボールの数やコート内に入る人数を調整する。
- ・ ボールの取り合いが激しくなった時はひっきりや転倒が起こる可能性があるので、子どもたちにも伝えていく。
- ・ 外部講師の活動時は、事前に内容の打ち合わせをし、予測される危険性を考え、環境設定を行うようにする。



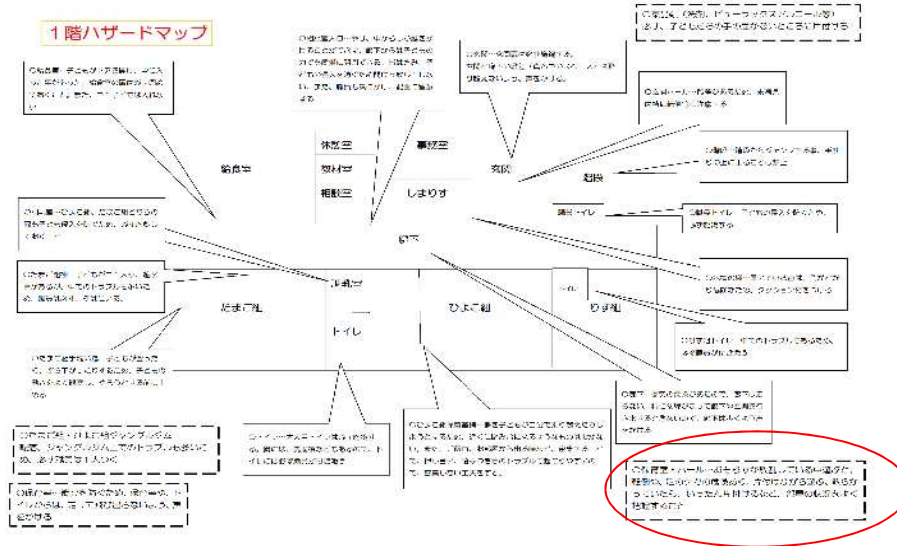
外部講師にどこまで委ねるのか…？保育者も環境設定を行う意識。



46

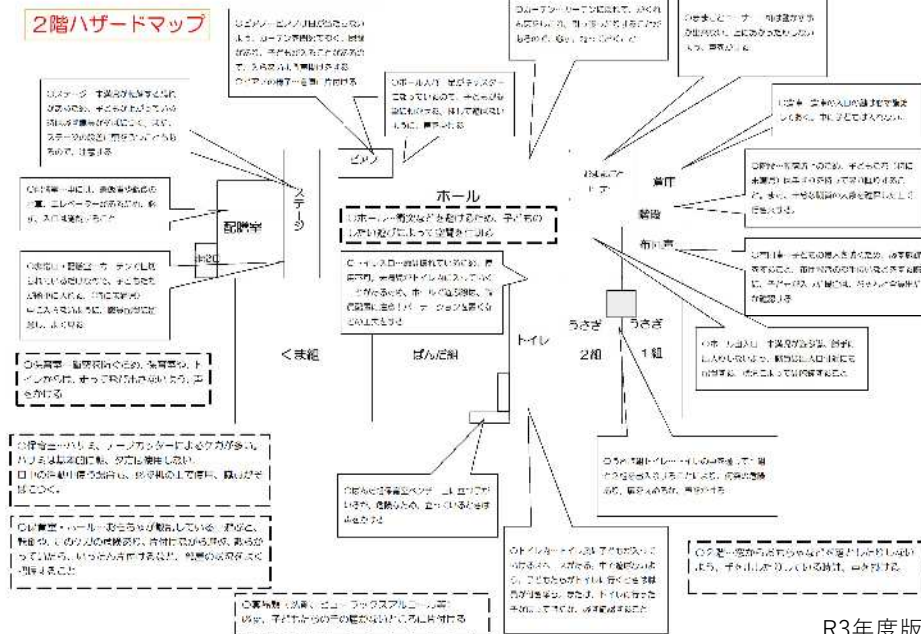
②事故防止の取組み紹介

＜園内ハザードマップ＞



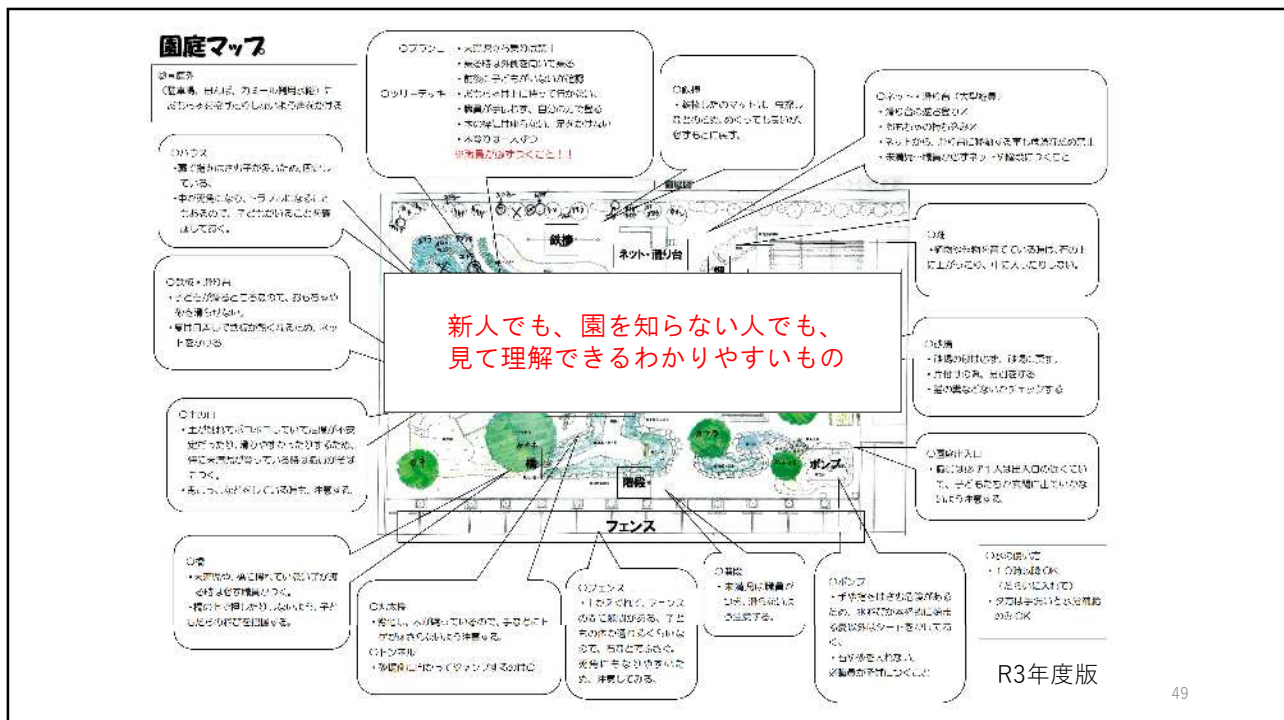
R3年度版

47



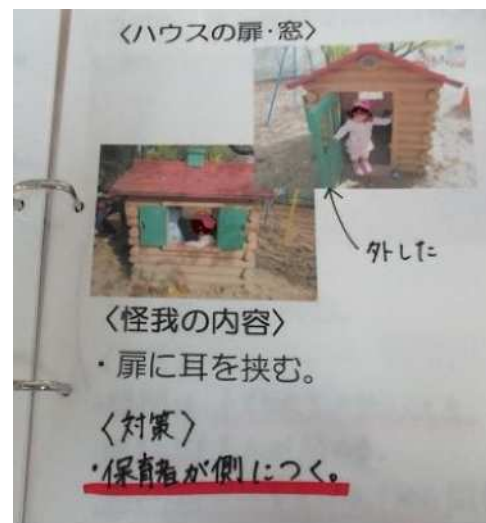
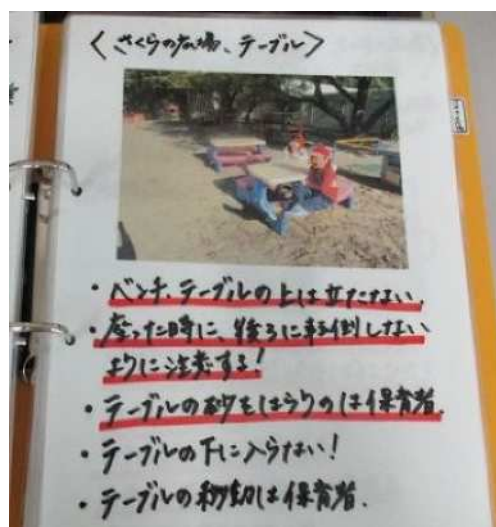
R3年度版

48



<マニュアルの共有>

R3年度版



園庭遊びマニュアル

R3. 3月改正

R3年度版

①あそびの約束 一日頃から子どもと確認する

1. コンクリート部分は歩く
2. 倉庫の裏や横には行かない
3. とも組との間の空間に行かない
4. 押さない
5. 1
6. 濡れている遊具は拭いてから使用する
7. 物を持って遊具に

⑤各遊具の約束

○滑り台

- 登るときは階段から（ぞうの滑り台はスロープから）※幼児クラスはゾウの滑り台は使用しない
- 前の子どもが降り終わってから登る
- 頭から滑らない（おしりをつけて滑る）
- アーチにぶら下がらない

○ジャングルジム

- 鬼ごっこはしない
- 飛び降りない
- 年齢・発達によって登れる高さに制限有り
- 1歳児〜くぐるのみ
- 2歳児→1段目から2段目まで
- 3歳児以上児→各クラスカラーの印の場所まで登ってよい

②身支度

- パーカー、紐のついている服は着用禁止（職員も同様）
- 防寒着のファスナー（ボタン）を開める（防寒着のフードは背中に入れ）
- サンダルや長靴の時、遊具は使用しない（かかとのあるサンダルは履い

③園庭にでる前に

- 玄関が混み合わないようには差をつけて準備する
- 隣の公園との門扉にチェーンがかかって、出入りできないことを確認す
- 先に園庭に出る職員と最後に出る職員の役割分担をする

④職員の役割分担

- 全体を見る職員（全体を見守る意識をする）
- 固定遊具につく職員（各遊具に1人ずつ）
→固定遊具につけない時は、職員がそろうまで使用できない
- その場を離れる時は、他の職員に声掛けをする（職員が来るまでその場

○鉄棒

（ちゅうりっぷ・すめい・牛の尾くねにぶら下がる）

- 正しい握り方を知らせる（親指が下）
- 鉄棒の下に子どもがいないか、遊具等落ちていないか確認する
- 鉄棒使用は最大2名まで
- の方を向いて使う
- 鉄棒を使いたい子はジャングルジム側に並ぶ

○木製総合遊具

- 人数が混まないようにする
- 飛び降りない（側面からも）
- 上下同時に使用の場合は、職員が下にいる子に上を向かないように声をかける

○ボール

- 他の遊びをしている人や園舎に向かって投げない転がさない
- 遊び空間を決めて確保する

○その他

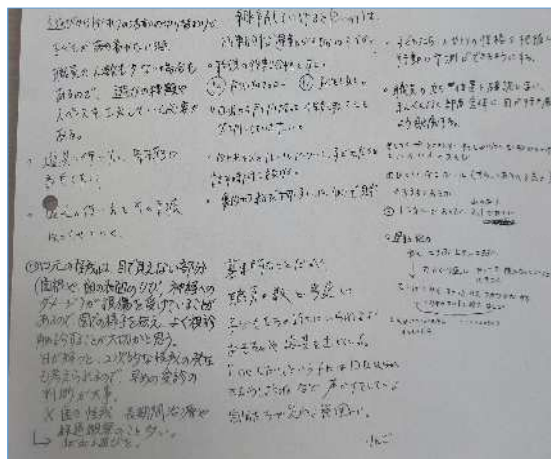
- 長いシャベルは4・5歳児のみ使用
- 手押し車（処分検討）

⑥最後に

- 最後のクラスは、園庭におもちゃが出ていないか確認する
- 掘った穴は、遊んだ人がその日にうちに埋める
- 最後に玄関に入るクラスは玄関の施錠をする

51

<危機意識を持つ> 1.意見を出し合う



職員アンケート

R2. 5. 25

①チームワーク ②意見交換

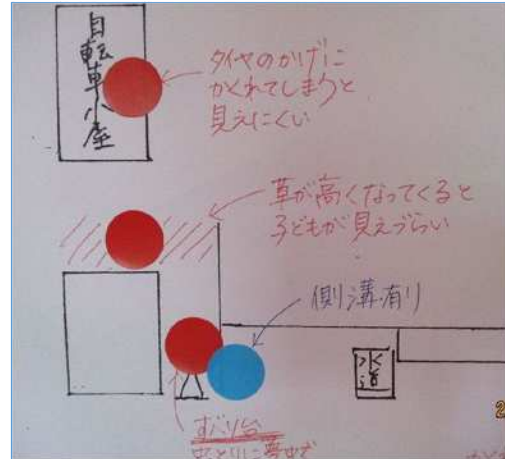
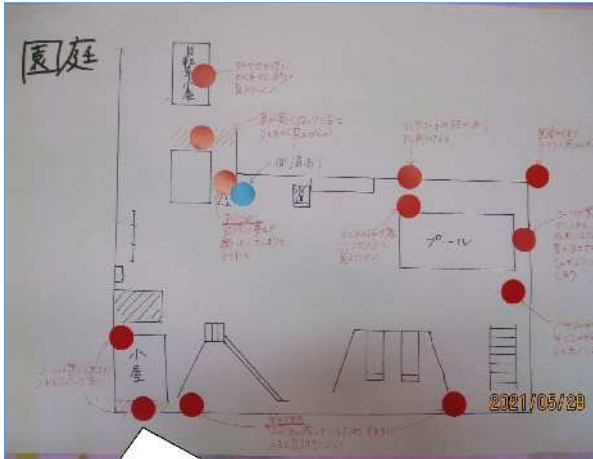
令和2年度が始まり、もうすぐ2か月が過ぎようとしています。前年度末から新型コロナウイルス対策で大変な毎日になっておりますが、日々の保育ありがとうございます。皆様のおかげで大きな成長もなく、どのクラスも「新年度当初に比べる」と驚かされてきています。新年度が始まり「これはどうかな？」と思うことはあると思いますが、疑問に思ったことを声に出して確認してもらい、チームワークよく日々の保育ができればと願っております。よろしくお願いたします。

- ここで皆さんにお願です!!
- ①「園舎や廊下のここ、または、この流れが気になる、危ない、大丈夫？」を教えて下さい。改善できることから改善できるようにしていきたいと思っております。すでに3階保育室の床にクッションを貼ったり、カチカチ山にネットを巻いたりと改善しました。 もっと「コッ」を教えてください
 - ②「令和2年度、始まっていかがですか？」子どものこと、クラスのこと・園長先生とも面談があり、お話ししているとは思いますが毎日も思うように書いて下さい。日々の保育で忙しいところ恐縮ですが、6月3日(木)までにお願いたします。スケジュール3の制度に入れて下さい。よろしくお願いたします。

52

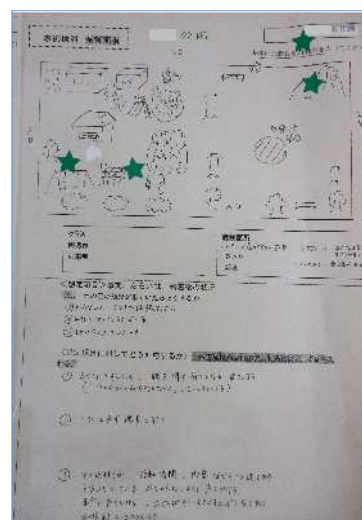
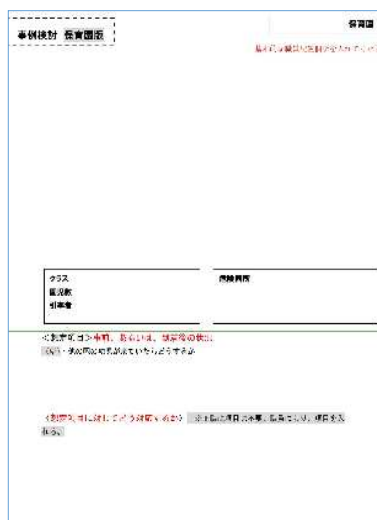
<危機意識を持つ> 2.危険個所の把握

R3年度版



53

<危機意識を持つ> 3.あらゆる場面の想定



R3年度版

54

③具体的な防止策について

- ・一つの重大な事故を防ぐためには、
ヒヤリハットを減らしていくことが重要
(ハインリッヒの法則)



× 責任追及 (無意味で有害…隠ぺいの恐れ…)

○ 原因追及と次のケガへの予防

事故は隠すものではなく、予防に向けて皆で考え対策をとるもの

55

- ・「なぜ事故が起こったのか?」「どうしたら防げたのか?」
「再発防止のためにはどうしたら良いのか?」・・・

職員間でしっかりと話し合ってみましょう。 **偽りの安心感**

- ・ 具体性のない「見守りをしっかり」や「立ち位置に気を付けて」は、
効果もないまま、予防に取り組んだ気分になる分かえって危険です。

職員全体で具体的な再発防止策を意識していきましょう。



56

再発防止策は具体的に

具体策の悪い例	その理由
注意してよく見る 全体を意識して見る	漠然としている どの距離感で見るか個人差が出る
随時点検する	「何分に何回」「〇時に」 「〇〇したとき」など頻度が具体 化されていない
常に目を離さない	集団保育の中で現実として不可能

具体的で 実行可能な 再発防止策を！

57

≪鉄棒から落下し、腕を骨折≫

鉄棒をする時には手を離さない約束をしてもらい、近くで見守る。

≪公園内を走っており、転倒し歯を打撲≫

職員配置に気を付け、視野を広く持って保育する。



≪室内でふざけており、椅子にぶつかり歯を打撲≫

保育室の環境を整えると共に子どもたちの安全確認をとっていく。

≪友達にスコップで顔を叩かれ、口唇裂傷≫

何故怪我が起きてしまったか話し、確認をした。



58

④保健情報だよりの活用

- ・ 保育課より、年に数回不定期発行
- ・ 事故防止や保健衛生をテーマに、情報を発信



事故事例

タオル掛けのフックがまぶたに入り裂創！

【事故概要】

園児（3歳男児）が、保育室の隅に置いてあったタオル掛け（カバン掛けとして使用）とロッカー・絵本棚の間に入ったところ、一番端のフックが左まぶたに入り裂創。左まぶたの両端・内側・外側が切れているため、全身麻酔で手術を行った。

ロッカーとタオル掛けの位置関係



受傷したタオル掛け



この部分がまぶたに入ってしまった

50



61



62

- ・ 防げる事故を防ぐ



- ・ 事故そのものは避けられなくても、それによって起こる結果（傷害）の程度を下げる

63

まとめ

**大切な子どもたちを守ることは、
保育士の人生を守ること。**



保護者にとって、またその周囲の方々にとって、「子どもを亡くすこと」ほど、つらいことはない。

重大事故を経験した保育士は、保育現場を離れてしまうことも少なくない。

64

ご視聴いただきありがとうございました

事例紹介に使わせていただいた施設の皆様
ご協力ありがとうございました！

私市立園が共に学び合う新潟市へ！



65